

世界とつながるホストタウン交流

〜東京オリンピック・パラリンピックまであと500日〜

中国強化キャンプ



2018年8月10日から9月9日までの31日間、ナショナルチームのメンバー16人が市内で合宿を行いました。サーフトレーニングのほか地元小学生との交流や着付け、茶道などの日本文化も体験し、交流を深めました。

これまでの取り組み

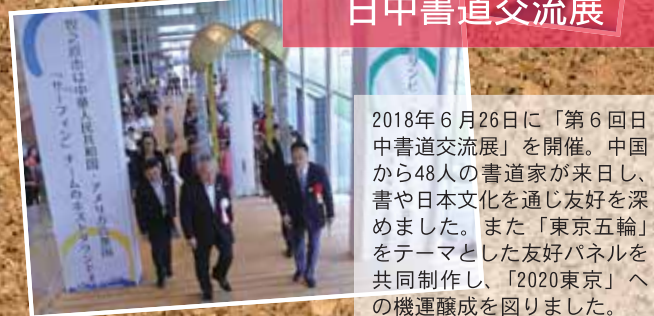


米国事後キャンプ



愛知県田原市で開催されたワールドサーフィンゲームス(世界選手権)に出場した米国代表の女子選手らが、2018年9月22日から24日にかけて当市に滞在し、地元女性サーファーとの交流や着付けなどの日本文化の体験を楽しみました。

日中書道交流展



2018年6月26日に「第6回日中書道交流展」を開催。中国から48人の書道家が来日し、書や日本文化を通じ友好を深めました。また「東京五輪」をテーマとした友好パネルを共同制作し、「2020東京」への機運醸成を図りました。

3月12日時点で開催まで500日となった2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会において、本市はアメリカ合衆国(以下、米国)と中華人民共和国(以下、中国)のサーフィン競技のホストタウンに登録されています。姉妹都市における高校生同士の相互交流が続く米国、さらに、2009年に開港した富士山静岡空港を通じて経済的・文化的交流が続く中国と、サーフィンを中心とした交流を進めています。

問い合わせ 情報交流課 桑田 ☎0040



中国と事前キャンプに関する覚書締結(平成30年3月15日)

データ(外務省中国基礎データから)

面積 約960万平方キロメートル
(日本の約25倍)
人口 約13億9,000万人
首都 北京

中国のサーフィン事情

もともと海のレジャーはほとんど開発されていませんでしたが、トレンドも変わりつつあり、ここ数年においては、ビーチでのレジャー、特にサーフィンが少しずつ人気となっています。中でも、ベトナムとフィリピンの間にある海南島は「中国のハワイ」とも称され、世界大会も開催されるなど人気が高まっているサーフスポットのひとつです。



米国と事前キャンプに関する覚書締結(平成30年2月26日)

データ(外務省米国基礎データから)

面積 約962.8万平方キロメートル
(日本の約25倍)
人口 約3億2,775万人
首都 ワシントンD.C.

米国のサーフィン事情

サーフィン大国といわれ、聖地ハワイやU.S.オープンが開かれるカリフォルニア州のハンティントンビーチやマリブなど、人気のサーフスポットも多数あります。サーフィンとリンクした音楽、ファッションも魅力的です。2020年東京オリンピックでも、オーストラリア、ブラジルなど強豪国が競う中、有力なメダル候補に挙がっています。

これからの取り組み

- ▶ 2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に、国内外から多くの観光客などが訪れることが見込まれています。特に、多くの海水浴客やサーファーでにぎわう市内海岸では、トイレやシャワーを設置するなどの環境整備を進めていきます。
- ▶ オリンピック前年となる2019年度は、中国チームが5月から約2ヵ月間、市内で強化キャンプを行う予定になっています。また米国も、9月に開催されるワールドサーフィンゲームス(世界選手権)の前に、市内で調整合宿を行う予定です。

東京オリンピック・パラリンピックが開幕する2020年に向けて、今後も官民が連携し、両国との交流を深めることができるよう取り組んでいきます。新年度からは、ボランティアの参画にも取り組んでいきますので、ぜひ皆さんもこの機会に、世界とつながってみませんか。

ホストタウンとは?

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、事前キャンプの誘致・受け入れなどを通じて、大会参加国と経済的・文化的交流を図ることを目的とした国の制度です。ホストタウンは、これまで第12次登録まで行われ、県内では14の市が合計11の国・地域のホストタウンとなっています。

